

日本語キェルケゴール文献データベース Database for Kierkegaard Literature in Japanese

橋本 淳、平林 孝裕
Jun HASHIMOTO, Takahiro HIRABAYASHI

関西学院大学神学部
School of Theology, Kwansei Gakuin University

662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町
Uegahara-ichibancho, Nishinomiya, Hyogo, 662-8501

あらまし：「日本語キェルケゴール文献検索システム」は、1906年から1985年に至る日本語キェルケゴール文献（原著書の翻訳ならびに研究文献ほか）の全容をふくむ文献検索システムである。その特徴は、第一次文献と第二次文献の有機的な連関が考慮した立体的な検索を可能にした点にある。又、主要データには、研究史に担う意義が付されている点でも、きわめて有用なデータベースとして構築されている。

Summary: "Database for Kierkegaard Literature in Japanese" is a search engine for Japanese translations of Kierkegaard's works and the literature on Kierkegaard available in Japanese covering the period 1906 through 1985. To provide maximum usefulness as a database the system was designed with a search engine that is capable of performing multi-level relational searches between primary and secondary sources. Additionally, for major entries the database provides a useful commentary on its significance.

キーワード: 日本語キェルケゴール文献、文献データベース、立体的検索

Keywords: Kierkegaard literature in Japanese, literary database, multi-level search

序.

19世紀デンマークに生まれた天才、キリスト教思想家セーレン・キェルケゴール (Søren Kierkegaard, 1813~1855) は、20世紀初頭に再発見されるととも

に、その思想の予言者的な性格ゆえに高い関心を呼び、のちのヨーロッパ精神史の歩みに大きな足跡をのこした。その影響は、キリスト教神学にとどまらず、哲学、心理学、そして文学へときわめて広範な領域で見出すことができる。

キェルケゴールの影響は、ヨーロッパにとどまらず我が国でも著しいものがある。日本におけるキェルケゴール受容は、明治39年にまでさかのぼり、以来、わが国では、その質量ともに、欧米に比肩しうるキェルケゴール文献が認められる。

1. 「日本語キェルケゴール文献検索システム」

日本語キェルケゴール文献に関する目録作成は、かねてより萬里小路通宗氏の手ですすめられ、その成果が逐次、公表されてきた¹⁾。1984年に関西学院大学では、キェルケゴール文献システム作成共同研究会を組織し、同氏の長年にわたる成果と共に、これに新規データを加え、日本語キェルケゴール文献に関する総合的なコンピュータ検索システムの開発に着手した。

「日本語キェルケゴール文献に関するコンピュータ検索システム」²⁾ (以下、キェルケゴール文献検索システム)は、関西学院大学および文部省からの研究補助を得て、1987年に一先ず完成をみ、すでに実用に供されている。

この「キェルケゴール文献検索システム」は、1906年(明治39)から1985年(昭和60)に至る日本語キェルケゴール文献の全体を網羅する我が国最初の総合的なキェルケゴール文献検索システムである。所収文

献の総数は、1427 件にのぼる。入力されたデータは大別して二つのカテゴリーに分類される。

A. 原著作の翻訳 (177 件)

キェルケゴールの公刊著作あるいは日誌・遺稿集及び手紙などキェルケゴールの第一次資料に関する日本語訳(単行書、単行書の一部としての所収のもの、雑誌に所載のものなど)

B. 研究文献 (1250 件)

キェルケゴールに関係して日本語で書かれた二次的文献・資料(単行書、単行書の一部として所収のもの、雑誌・月報所載のもの、新聞記事、書評、文献目録、年表、会議報告、また学術大会における研究発表要旨など)。さらに諸外国の研究書・雑誌論文の日本語訳もこれに含む。

また、検索システムの特徴は、「利用者のためのガイドブック」³⁾に紹介されているように、以下の点に見られる。

- ① 明治 39 年から昭和 60 年に至る、日本語キェルケゴール文献の全容(翻訳・研究・書評・文献目録・年表・新聞記事ほか)が、総合的に把握できる。
- ② 漢字表示によるメニュー方式でできており、コンピュータに不慣れな研究者であっても、容易に利用可能なシステムであること。
- ③ 著者検索・項目検索等の一般的な用途の他に、第一次資料と第二次資料の相互の関連検索が可能となる、立体的なシステムになっていること。
- ④ 主要データには注記が付されて研究史に担う意義が解説されているほか、初出の雑誌論文がその後単行書へと展開する経緯等も指示される。

2. 検索の実際

以上のような特徴をキェルケゴール文献検索システムは有するが、実際の検索方法には次の 5 種類が用意されている。

- (1) 原著作の日本語翻訳に関する検索、
- (2) 研究文献の検索
- (3) 内容項目に関する検索
- (4) 著者(訳者)に関する検索
- (5) 関連検索
(第一次資料と第二次資料の相互関係にかかわる検索)

検索のための初期画面は、(1)原著作の翻訳、(2)研究文献、それぞれに関する検索を選択するか、または、現著作の翻訳と研究文献の全資料について著者(訳者)名からの検索ができるよう設計されている(図 1 を参照)。

キェルケゴールの原著作は、文学から神学ならびに哲学・心理学などの多様なジャンルに及び、さらに彼が遺した膨大な日誌記述・遺稿が、これに加わる。したがって原著作の翻訳に関するデータベースはこのような事情に対応したものでなければならない。そこでキェルケゴール文献検索システムでは、原著作を 9 つのカテゴリーに分類し(図 1 の A の右を参照)、カテゴリーを絞り込んだ上で、著者(訳者)名により検索を進めることができる。また、この原著作の検索には、利用者の便宜を考慮して、その他として「キェルケゴールの言葉」「キェルケゴールの祈り」「キェルケゴールの引用語句、モットーなど」が含まれている。

研究文献の検索は、主として内容項目による検索となっている(図 1 の B の右を参照)。キェルケゴールの伝記的な問題について詳細なメニューが準備されているほか、思想については美学・哲学・宗教思想・政治社会といったテーマから、利用者はその関心に従ってさらに個別的なテーマへと検索を行うことができるよう工夫されている(図 2. コード表の例を参照)。

著者(訳者)名による人名検索では、姓をカタカナ読みで入力して行うが、また姓の一部分からでも検索が可能である。また姓・氏名(例えば「ズギヤ ヨシム」)を同時に入力して検索することも可能である。

しかしながら、この文献検索システムのもっともすぐれた点、実際にキェルケゴール文献を検索する上で利用者に有益な点は、検索システムの立体的な構成にある。

一般に、文献検索システムが構築される場合、第一次資料(著作などの翻訳)と第二次資料(研究文献など)とがそれぞれ独自のシステムとして設計され、この両者の有機的な連関を図ることは疎外されがちである。「キェルケゴール文献検索システム」では、当初からこの二つを一体化して統合的な検索を可能にするよう意図され、第一次資料と第二次資料とが相互に関連検索が可能となるよう設計されている。

したがって原著作の翻訳に関する検索の結果から、直接これと関連する研究文献をさらに検索することが可能であるし、また逆に、研究文献の検索からその内容に結びつくキェルケゴールの著作種別へと関連検

索も可能となっている。この目的のために、研究文献ほかの第二次文献は、その内容を精査し、これに関連性を有する著作などの第一次資料へと接続された。

以上のように、キェルケゴール文献検索システムは、簡便な操作によって利用者に近づきやすいだけでなく、その内容においても、キェルケゴール理解の深まりにおおいに寄与するものである。

3. 国際版データベースの試み

これまで関西学院大学共同研究会による「キェルケゴール文献検索システム」について報告してきたが、これは日本語での利用を前提において構想されている。その一方で近年、キェルケゴール研究がますます国際化し、海外との研究者との研究協力・交流がさかんになると共に、明治以来の豊かな日本におけるキェルケ

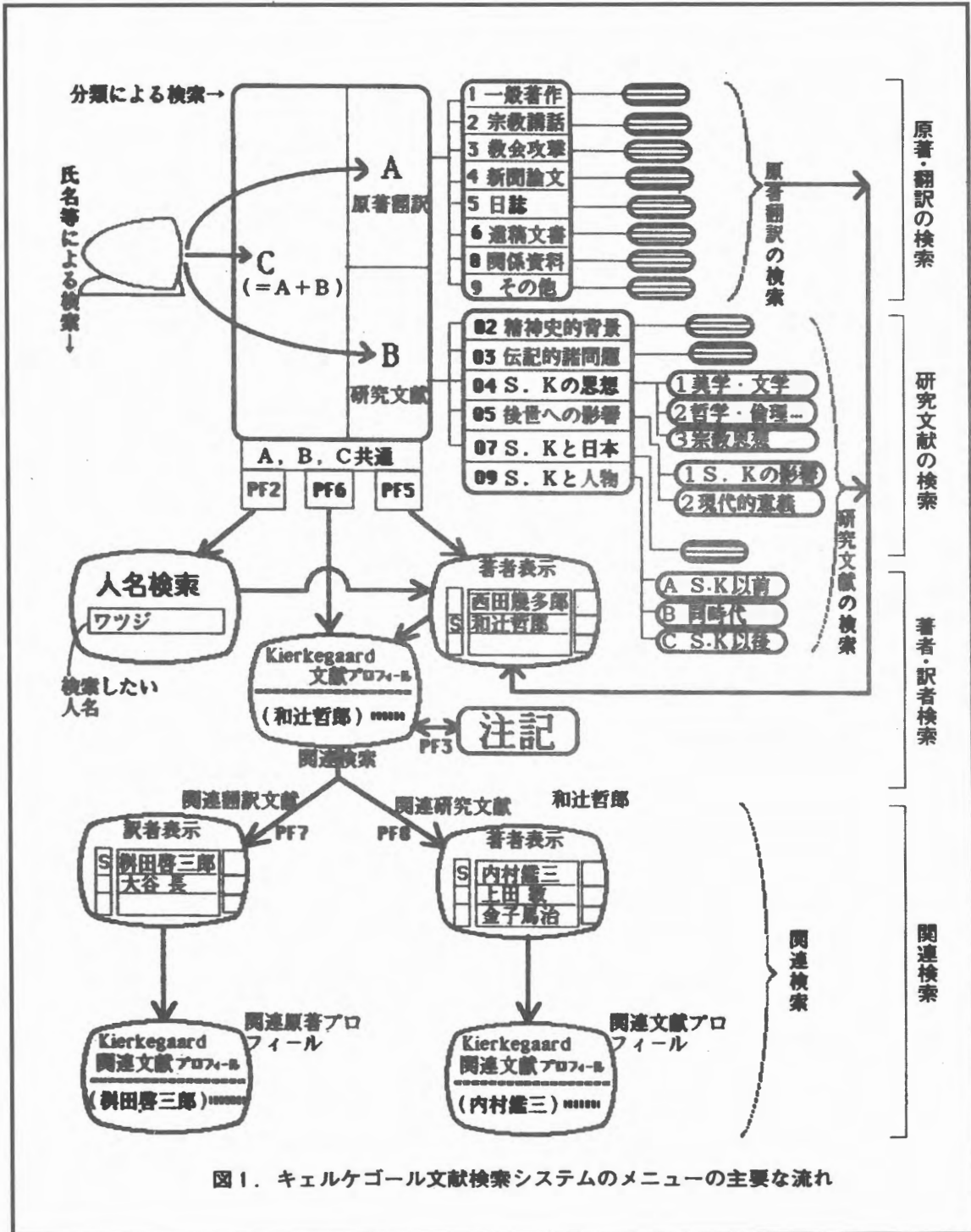


図1. キェルケゴール文献検索システムのメニューの主要な流れ

ゴール研究の成果を広く海外に紹介するようにとの要望もたかまりつつあった。オーゼンセ大学（現・南デンマーク大学）のモーテンセン（Finn Hauberg Mortensen）教授は、このような日本のキェルケゴール研究の紹介を試み⁴、そのなかで主要な日本のキェルケゴール文献の目録を所収したい旨を強く希望された。これに呼応する形で再び共同研究会が組織され、1994年から1995年にかけて日本語キェルケゴールデータベースの国際版⁵が準備された。その際の用語は、キェルケゴール研究における国際共通語ともなっているデンマーク語が採用された。これらはテキストファイル（または印刷物）として頒布された。（したがって、これには現在、検索システムは付属していない。）

データとして収録された内容は、

- ① 原著の日本語訳：1930-1979年
- ② 研究書（単行書と単行書の一部として所収されたもの）：1915-1994年
- ③ 雑誌論文：1906-1979年

ただし、これは既存のキェルケゴール文献検索システムに収録されたすべてではなく、書評・新聞記事などは収録されなかった。

4. 課題と展望

今後の課題としては、まず「日本語キェルケゴール文献検索システム」について、既入力日本語データベースを再点検し不備を是正すると同時に、昭和61

年以降の新規データを補完することが求められる。

さらに日本語文献データベースを整備した上で、国際版データベースの完成を期すべきものと思われる。

いっぽう今日の情報通信技術の進展は目を見張るものがあり、その成果が、また考慮されなければならない。すなわち、現在、「日本語キェルケゴール文献検索システム」は、大型計算機を利用してTSS端末機から利用する形態で運用されているが、これをそれぞれの利用者のパーソナル・コンピュータでの利用での前提とした改良システムへ、またはインターネットを介してWEBをもちいた検索システムに移行することが必要となつてこよう。

- 1 『キェルケゴール研究』（キェルケゴール協会），創刊号，第7号，第8号，ほかを参照。
- 2 1984年度関西学院大学共同研究費および昭和61年度文部省科学研究費補助金による研究成果である。また、その作成にあたっては(株)アシストの協力を得ている。
- 3 関西学院大学キェルケゴール文献システム作成共同研究会編「日本語キェルケゴール文献に関するコンピュータ検索システム利用者のためのガイドブック」昭和63年。
- 4 Finn Hauberg Mortensen, *Kierkegaard Made in Japan*, Odense: Odense UP, 1996.
- 5 *Soren Kierkegaard Litteratur i Japan, 1906-1979*, redigeret ved Jun Hashimoto, Michimune Madenokoji og Takahiro Hirabayashi, 1995.

内容コードの形式：〈内容コード(1) 2桁〉+〈内容コード(1) 1桁〉+〈副コード 3桁〉

「キェルケゴールの思想」〈内容コード(1) 04〉から検索するケース（図1のBの右のコード）

内容コード(2)：2の副コード表

コード	内容コード(2)
1	美学、文学など
2	哲学、倫理思想、論理学など
3	宗教思想（キリスト教理解）
4	政治・社会に関するもの
9	上記以外

副コード	内容	副コード	内容
001	哲学者としてのキェルケゴール、哲学的著作	009	自己、精神
002	ヘーゲルとの関係・批判	010	倫理の実存、倫理思想、倫理の実存、決断・選択、誠実
003	実存概念、実存の三段階、実存弁証法、実存的思惟、生成	011	例外者、単独者、個と普遍
004	時間論、永遠、歴史、瞬間	012	デモニッシュなもの、悪
005	真理、主体性、現実性、内面性、可能性	013	論理学、逆説、懐疑
006	死、不安、苦悩、自由、ニヒリズム、無、人間学、絶望	014	伝達の方法、間接的伝達、ソクラテス的なもの
		015	教育、学問
007	反復	—	—
008	イロニー、フモアー	999	上記以外のもの

図2. 研究文献検索のためのコード表の例